

主催：「小さな自然再生」研究会

淡海を守る釣り人の会 / 日本河川・流域再生ネットワーク

後援：滋賀県、守山市、（一財）セブン-イレブン記念財団

## 「小さな自然再生」現地研修会（第13回）開催報告

2021年11月21日（日）滋賀県守山市・野洲川流域 大川



現地研修



座学研修



**日本河川・流域再生ネットワーク**

2022年3月



公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けています。

# 「小さな自然再生」現地研修会（第13回）

## 開催報告

2021年11月21日（日） 滋賀県守山市・野洲川流域 大川

### はじめに

第13回「小さな自然再生」現地研修会を、滋賀県守山市の野洲川流域大川・新川にて2021年11月21日（日）に開催致しました。

本研修会では、「河口部・内湖の保全と再生を考える」をテーマに、大川・新川河口部の湿地環境の視察と座学研修を通して、環境学習や地域の賑わい創出の場として、魚や水生昆虫などが増え、生物の多様性を高めるためにこれからできることについて参加者と共に考えました。

この開催報告は、研修会の参加者とともに学んだ内容の一部を、当日の写真や講演資料を中心に皆様にご紹介するものです。

本研修に協働・協力頂きました、淡海を守る釣り人の会、滋賀県、守山市、（一財）セブン・イレブン記念財団及び「小さな自然再生」研究会の皆様には厚く御礼申し上げます。



2022年3月

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)

## 開催概要

- 開催日時： 2021年11月21日（日） 9:00～16:30
- 開催場所： 美崎公園パークセンター 会議室、第2なぎさ公園（滋賀県守山市）
- 参加者： 34名
- 主催： 淡海を守る釣り人の会、「小さな自然再生」研究会、  
日本河川・流域再生ネットワーク
- 後援： 滋賀県、守山市、（一財）セブン-イレブン記念財団

## プログラム

### **(9:00-12:50) 第1部：「第5回滋賀セブンの森」参加、**

#### **湖岸清掃をしながら新川河口部及び大川河口部の現地視察**

現地案内・指導： 淡海を守る釣り人の会、丹羽英之（京都先端科学大学）、  
佐藤祐一（琵琶湖環境科学研究センター）、瀧健太郎（滋賀県立大学）、  
岩瀬晴夫（㈱北海道技術コンサルタント）

### **(14:00~16:30) 第2部：大川河口部の湿地環境を学ぶ座学研修**

- 挨拶（宮本和宏：守山市長 / 武田みゆき：淡海を守る釣り人の会副代表  
/ 土屋信行：JRRN代表理事）
- 内湖周辺湿地の植生（丹羽英之：京都先端科学大学）
- 内湖の機能・価値と再生の方策を考える（佐藤祐一：琵琶湖環境科学研究センター）
- 意見交換会  
進行：瀧健太郎（滋賀県立大学）

## 現地演習（午前：第1部「第5回滋賀セブンの森」参加）

### テーマ：「河口部・内湖の保全と再生を考える」

滋賀県守山市を流れる大川・新川は、琵琶湖に注ぐ野洲川の旧河道の一つです。琵琶湖の環境保全や地域振興を目的に、大川河口部を含む第2なぎさ公園を「滋賀セブンの森」と定め、一般財団法人セブン-イレブン記念財団と滋賀県、守山市、淡海を守る釣り人の会の4者間で琵琶湖を取り巻く環境を健全な姿で引き継ぐための連携協定を締結し、環境保全などに取組んでいます。

本研修会の第一部（午前）では、同日に開催された「第5回滋賀セブンの森」に参加し、淡海を守る釣り人の会の案内のもと、大川河口部及び新川河口部の湿地環境を専門家と共に視察し、環境学習や地域の賑わい創出の場として、魚や水生昆虫などが増え、生物の多様性を高めるためにこれからできることについて参加者とアイデアを膨らませました。



開催場所

## 【受付及び開会挨拶】



「第5回滋賀セブンの森」の受付会場にて現地研修会も受付



「小さな自然再生」現地研修会参加者での開会挨拶

## 【新川河口部へ移動～新川河口部の視察】



琵琶湖湖岸のゴミを拾いながら新川河口部へ移動



新川河口部にて自然環境面の課題を参加者で共有

## 【大川河口部の視察】



大川河口部へ移動し、河口部の様子を視察しながら現地の課題を共有



大川河口部に生息する魚類や水生生物、植物を研修参加者が観察



大川河口部の魚類調査（佐藤祐一：琵琶湖環境科学研究センター）

## 【座学会場へ移動～ランチ】



午前の第1部（現地研修）を終えて座学会場へ移動



昼食はピワコドーターズの湖魚弁当

## 座学研修（午後：第2部 大川河口部の湿地環境を学ぶ）

### 【開会挨拶】



守山市の宮本和宏市長より、周辺地域の魅力や自然環境の価値などについて話題提供を頂き、午後の部の冒頭でご挨拶を頂きました。



滋賀県立大学の瀧健太郎先生より、大川及び新川周辺地域の特徴や自然環境保全に向けた課題について概要を紹介頂きました。



### 内湖周辺湿地の植生

**（丹羽英之：京都先端科学大学バイオ環境学部 教授）**

大川・新川河口部周辺の植生の特徴やエコトーン的重要性について話題提供頂き、内湖の環境が、琵琶湖湖岸よりも高い湿地ポテンシャルを有してことなどを紹介頂きました。

⇒ 講演資料は巻末「参考資料 1-1」を参照



### 内湖の機能・価値と再生の方策を考える

(佐藤祐一：琵琶湖環境科学研究センター総合解析部門 専門研究員)

琵琶湖と比較しながら内湖の水質等の水環境や植物の生育環境の特徴、魚類の生息環境としての重要性などについて解説頂き、内湖の価値を再発見し、その機能の再生を図っていくことの重要性をお示し頂きました。

⇒ 講演資料は巻末「参考資料 1-2」を参照

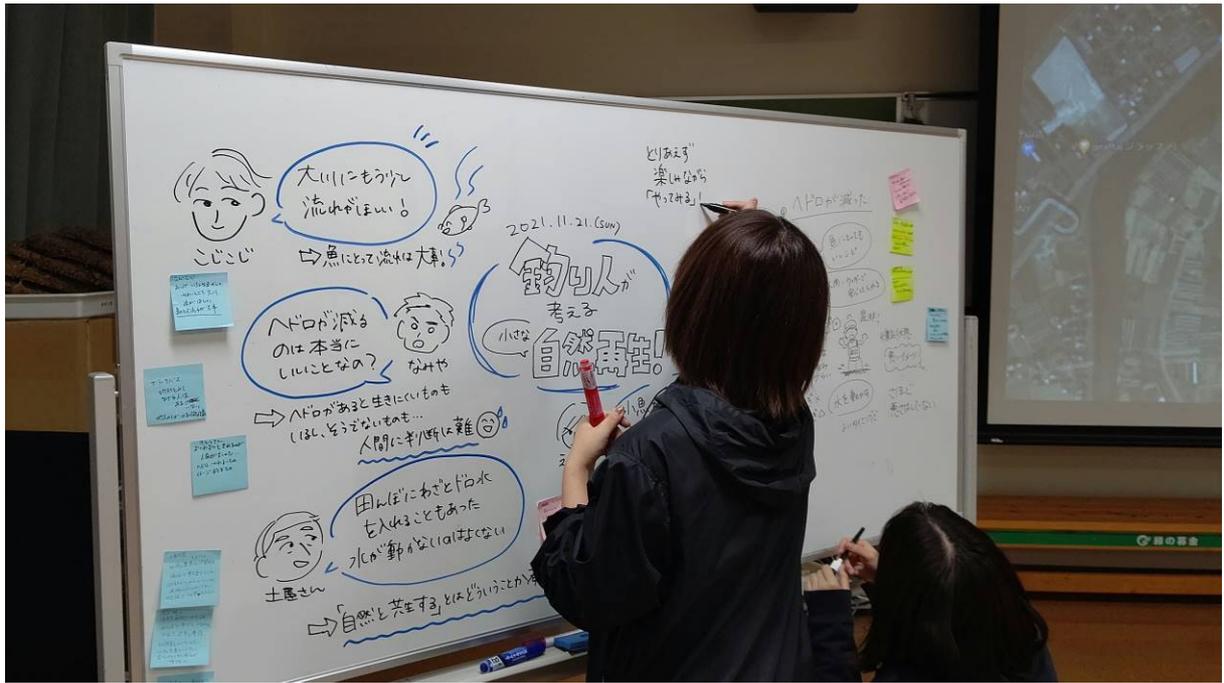
## 【意見交換会】



淡海を守る釣り人の会・武田みゆき副代表より環境改善に向けた課題について紹介



滋賀県立大学・瀧健太郎先生の進行により、大川河口部の保全・再生のためにこれからできることについて参加者と意見交換を行いました。



意見交換会の経過はグラフィックレコーディングでビジュアルに共有



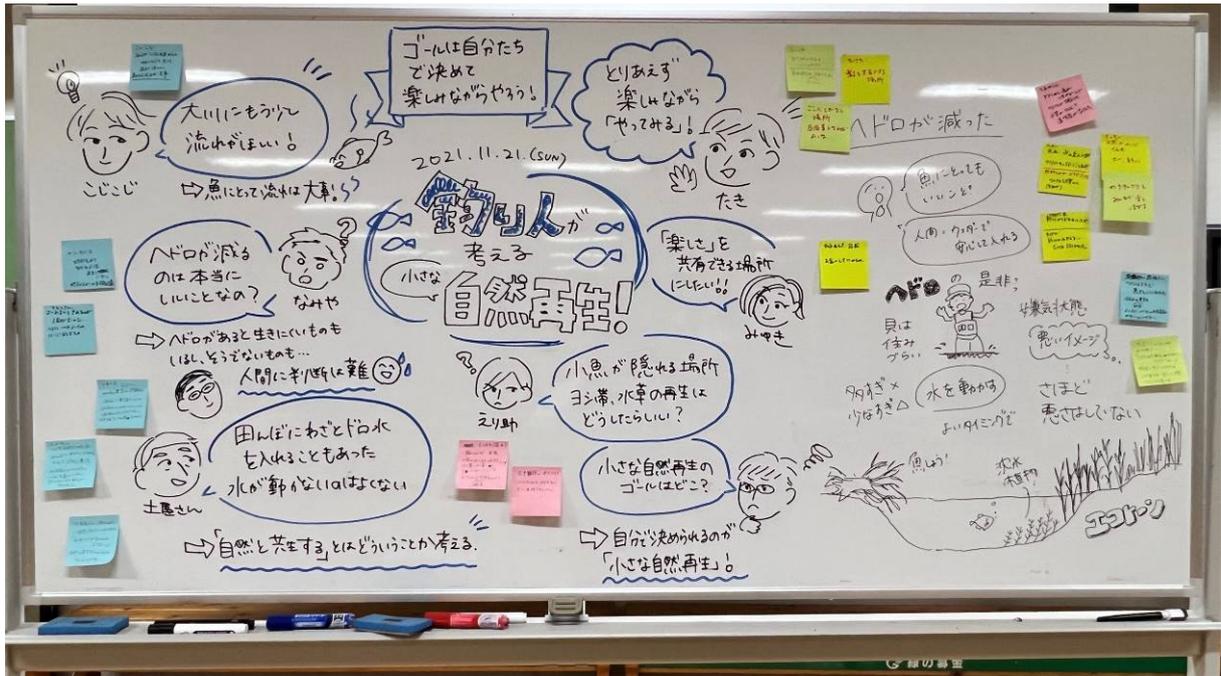
北海道技術コンサルタント（小さな自然再生研究会）・岩瀬晴夫講師より補足説明



日本河川・流域再生ネットワーク・土屋信行代表理事より補足説明



意見交換会の成果をグラフィックレコーディングで共有



本研修会の成果



現地研修会終了後の参加者による記念撮影

## 参加者からの声

普段、魚を中心としたものの見方をしてしまう釣り人にとって、植物や河川工学的な視点からのご意見を戴けることは新鮮で面白く、貴重な機会となりました。有識者の皆さんが「この場所は面白いね」「ここはこうやったらどう？」といった意見を沢山下さったので、ずっと大川のポテンシャルを信じて活動している者として、非常に嬉しく、そして励みになるものでした。大川という琵琶湖でも稀有なフィールドが、琵琶湖を愛する全ての人にとって大切にワクワクする場所になるよう、育んでいきたいと思います。 **(淡海を守る釣り人の会／神戸大)**

久しぶりに小さな自然再生に参加でき、非常に楽しかったです。現場研修会で実際にやることの大切さと面白さを改めて知ることができました。講座では、大川の現状と自分なりの未来を想像できて貴重なお話を聞けて良かったと思います。僕はあの場所を子供達の勉強の場所と共に地域に愛され場にしたいと思いました。 **(淡海を守る釣り人の会／大阪産業大学)**

2020年6月から始めた小さな自然再生。琵琶湖と廃川になった大川河口の出入り口の木を切って流れを良くしただけの作業でした。少しの変化しか起こせていませんが内湖の湖底は砂利を感じるようになってきました。ただ今後の展開は暗中模索。専門家の先生に現場を見ていただきたくさんの情報を与えていただき次の景色や方向性が見えました。研究者が持っている情報と釣り人たちが日々見ている水辺環境の変化を合わせるととてもいい成果が出る気がしています。これからもご指導お願いいたします。 **(淡海を守る釣り人の会)**

僕は途中参加だったのですが、佐藤先生のお話聞いて感じたことは窒素とリンの関係性や水位など、いくつかの要因が複合的に重なりあっているため、一流の学者さんでも一言で琵琶湖の環境を語るのは非常に困難だということです。これを知れただけでも勉強になりました。また、魚や植物などの生物視点か人間視点かによっても良い水質の基準が異なるので、釣り人の会でもどこにGOALを設定するか、みんなで議論してもいいと思いました。僕は何のために活動するのか、みんなで統一した目標を明確にした方がよいと思う派です！ **(淡海を守る釣り人の会)**

今後、大川・新川がどのように生まれ変わっていくかワクワク感が残った勉強会であり、特に「できることから始めよう。目標はそれぞれ。」という言葉が心に響きました。琵琶湖の魚が減っている理由に内湖の消滅が挙げられましたが、今後小さな自然再生を通じて、守山湖岸が琵琶湖の再生モデルとして発信していける地になって欲しいと思いました。こんなに多くの各分野のプロ達が集まる、大変有意義な機会を作ってください本当にありがとうございました。 **(守山市環境政策課)**

## 小さな自然再生勉強会で感じたこと

守山市民／寺谷公輔

### なぜ内湖再生が重要なのかを理解できた

今回の勉強会を通じて武田さんが取組まれている大川の内湖再生の意味と背景を理解できた。胴長を履いて琵琶湖に入ったときに「以外と琵琶湖キレイやん」という感覚があったが、滋賀県琵琶湖環境科学センター 佐藤先生のスライドで水はキレイになっても魚（特に在来種）が減っている、その原因が人間の活動（埋め立てや水位操作）によって産卵場所を失ったことという事実を知り、その産卵場所として大川の内湖再生がモデルケースになり得るということを理解した。また、琵琶湖の生態系が人と自然の絶妙なバランスで成り立っていたこと、一度失ったバランスを琵琶湖で取り戻すのは不可能であり、内湖での小さな再生から取り組むのが現実的な路線であると知った。

京都先端科学大学 丹羽先生のお話で内湖は年月が経てば陸になる、維持していくには人為攪乱が必要で、大川の小さな自然再生には人為攪乱が起こせる釣り人の会、地形、湧き水、自治体協力と必要なりソースが整っていると感じた。地元に住む個人として参加したいし、会社も巻き込みたい。

### パッションを持った自発的な人の集まり

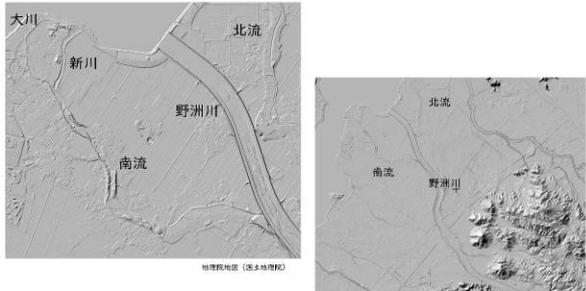
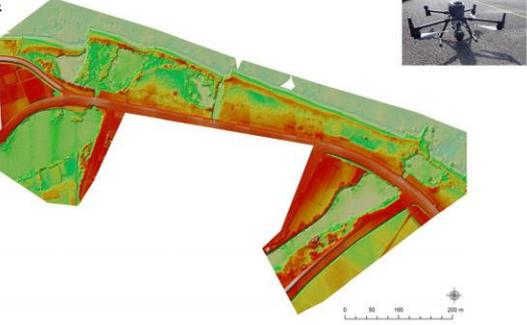
武田さんと前川さんが着火して、琵琶湖の環境保全に共鳴しあったメンバー同士のディスカッションは次々とアイデアが出て、バンバン化学反応が起こっていた。自主的に集まり、それぞれが自分のやりたいことの延長線上で琵琶湖に関わっている。その羅針盤として MLG s があるという構図かなと勝手に解釈した。学生の方が質問された「この取組の“目的・ゴール”は？」の質問に対して、瀧先生がおっしゃった「自分で決めたら」が全て。自然が相手なので決まった答えなどない。その問題に挑むのを楽しめる人が集まっているように感じた。企業も数値目標だけを意識してもモチベーションは上がらない。私はコカ・コーラ ボトラーズジャパンという会社に勤務しており、会社は「すべての人にハッピーなひとときをお届けし、価値を創造する」というミッションを掲げている。それぞれのやりたいことの延長線上に「ハッピー」があるといいと感じた。

### 全ては繋がっている

今私の関心事は「環境」である。みらいもりやま 21 との地球市民の森の再生事業、琵琶湖の環境保全活動など、再生は地球市民の森と繋がっている。未来を良くしたいと思う人が繋がれば繋がるほど未来は明るい。SDGs のウエディングケーキの基礎、前提は「環境」なので未来を良くするための最重要課題なのは間違いない。そう信じて目の前の自分のやりたいことをやっいていこうと思った。

# 参考資料 1 (座学研修の講義資料)

## 【参考資料 1-1】 内湖周辺湿地の植生 講演資料 (1/5)

|  |   |
|--|---|
| <p style="text-align: center;">内湖周辺湿地の植生</p> <p style="text-align: center;">京都先端科学大学 丹羽英之</p>  | <p>氾濫原</p> <p><b>ハビタット</b><br/>エコトン、動的モザイク</p> <p><b>植生</b><br/>遷移遷移<br/>エノキ、ヤナギ類、ヨシ、オギ、ミソソバ<br/>攪乱依存種<br/>マツカサススキ、タコノアシ、ミズユキノシタ</p> <p><b>攪乱</b><br/>微地形<br/>湧水</p> <p><b>攪乱</b><br/>自然攪乱<br/>冠水(洪水)、土砂<br/>びわ湖と内湖の水位変動の差<br/>人為攪乱<br/>草刈り</p> |
| <p style="text-align: center;">微地形</p>   | <p>地形</p>   |
| <p>微地形</p>  | <p>微地形</p>    |



【参考資料 1-1】 内湖周辺湿地の植生 講演資料 (3/5)

ハビタット



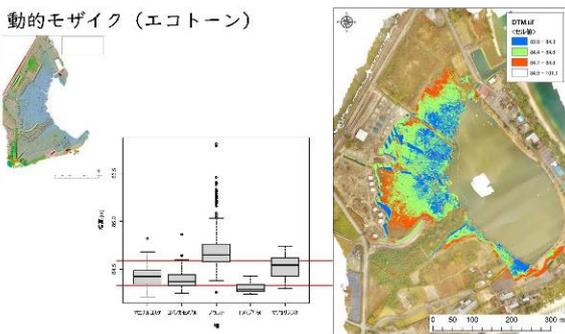
エコトーン



エコトーン



動的モザイク (エコトーン)

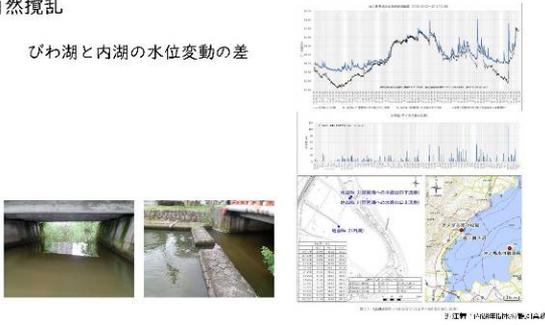


攪乱

【参考資料 1-1】 内湖周辺湿地の植生 講演資料 (4/5)

自然攪乱

びわ湖と内湖の水位変動の差

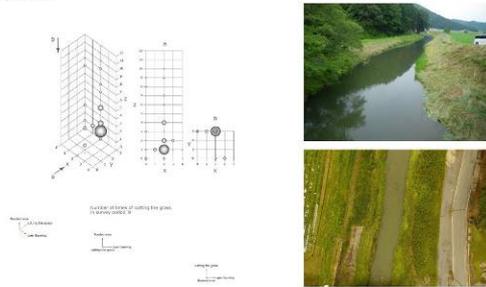


人為攪乱

| 項目 | 人為攪乱 | 自然 | 人為攪乱 | 自然 | 人為攪乱 | 自然 | 人為攪乱 | 自然 |
|----|------|----|------|----|------|----|------|----|
| 植生 | 高い   | 低い | 高い   | 低い | 高い   | 低い | 高い   | 低い |
| 動物 | 高い   | 低い | 高い   | 低い | 高い   | 低い | 高い   | 低い |
| 土壌 | 高い   | 低い | 高い   | 低い | 高い   | 低い | 高い   | 低い |
| 水質 | 高い   | 低い | 高い   | 低い | 高い   | 低い | 高い   | 低い |
| 気候 | 高い   | 低い | 高い   | 低い | 高い   | 低い | 高い   | 低い |



人為攪乱



自然再生へ

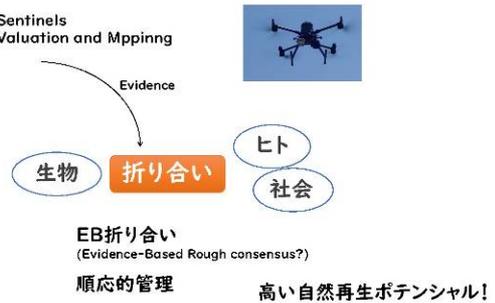
琵琶湖湖岸より高い湿地ポテンシャル

微地形、湧水、水位変動、上流の種子供給源、土壌シードバンク  
内湖とも異なる？

高い人為攪乱ポテンシャル

淡海を守る釣り人の会、Biwacompas・・・

- Sentinels
- Valuation and Mapping



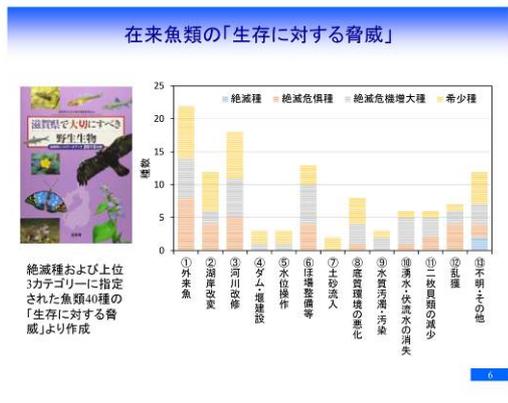
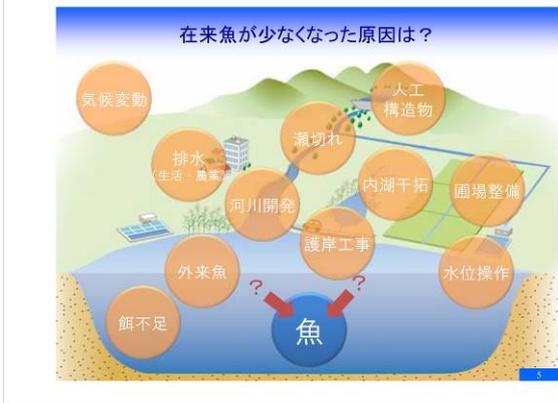
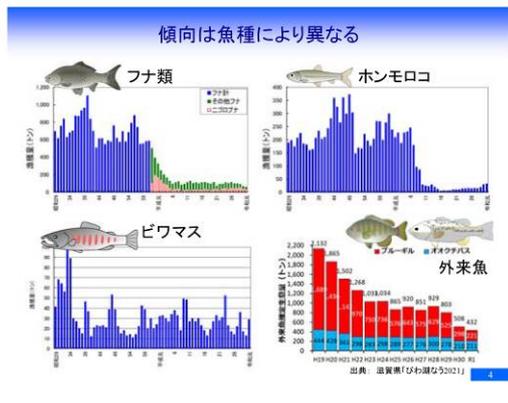
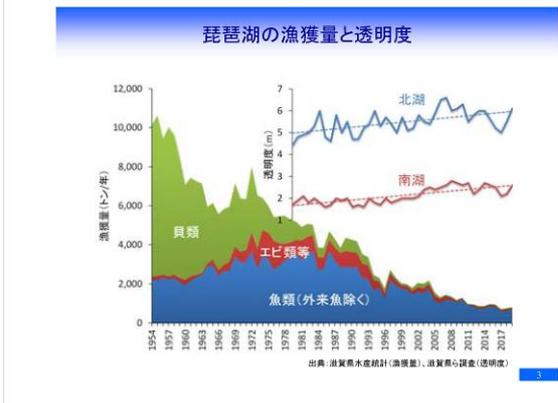
【参考資料 1-1】 内湖周辺湿地の植生 講演資料 (5/5)





### 話の流れ

- 琵琶湖と内湖
- 内湖の水・物質循環
- 内湖の生物資源～主に魚類について～
- 内湖の再生について

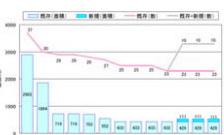


【参考資料 1-2】 内湖の機能・価値と再生の方策を考える 講演資料 (2/5)

### 内湖とは



琵琶湖の一部であった水域が、沿岸漂砂や河川から運ばれた土砂の堆積等により(水路等の一部分以外は)湖と隔てられ、湖岸の内(陸)側に生じた池、沼、沢、クレーク等と呼ばれるものの総称



出典:滋賀県「内湖再生企画ビジョン」 7

### 内湖の価値



- 自然環境・生態系としての価値 (琵琶湖湖沼域の生態系を支える環境、生物多様性を維持する価値など)
- 歴史地帯としての価値 (湖域からの土砂や魚骨といった遺産を、琵琶湖と比べて浸透が低いなど)
- 人の暮らしを支える価値
  - ①-1 水源としての価値 (生活用水、農業用水としての利用など)
  - ①-2 農業(なすびいり)の場としての価値 (漬物、沼シの生産の場としての利用など)
  - ①-3 湖国らしい景観を形成する価値 (琵琶湖周辺の固有の水辺景観の形成など)
  - ①-4 生活文化を育むことができる価値 (食文化「ナすび」、湖文化「沼シ」「沼シ屋敷」、新しい文化の醸成など)
  - ①-5 レクリエーションの場としての価値 (釣り、舟遊び、遊覧、散歩、バーベキューなどを行う場としての利用など)
  - ①-6 学習の場としての価値 (環境学習、自然観察会などの教育の場としての利用など)

出典:滋賀県「内湖再生企画ビジョン」 8

### 話の流れ

- 琵琶湖と内湖
- 内湖の水・物質循環
- 内湖の生物資源～主に魚類について～
- 内湖の再生について

9

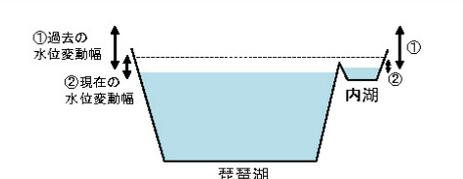
### 琵琶湖の水位変動パターン



1992年 瀬田川先導操作期間  
梅雨  
台風  
6～9月の水位が大きく減少している

出典:琵琶湖湖沼事務所 琵琶湖水位データより特選 10

### 琵琶湖の水位変動と内湖



①過去の水位変動幅  
②現在の水位変動幅

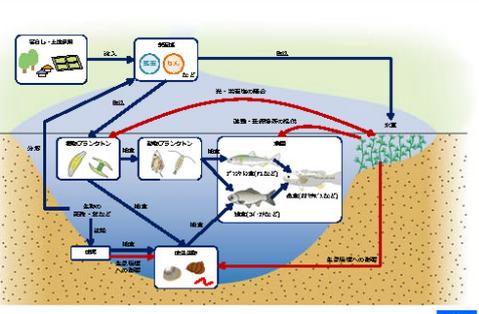
琵琶湖

内湖

琵琶湖の水位が下がり、琵琶湖と内湖が分断されると、  
 ・水を介した動植物の移動を阻害(特に春～夏のコイ科魚類の産卵への影響)  
 ・水温の高い夏季に水が滞留し、植物プランクトンが大増殖(堰や樋門の存在も影響)

出典:琵琶湖「内湖からのメッセージ」 11

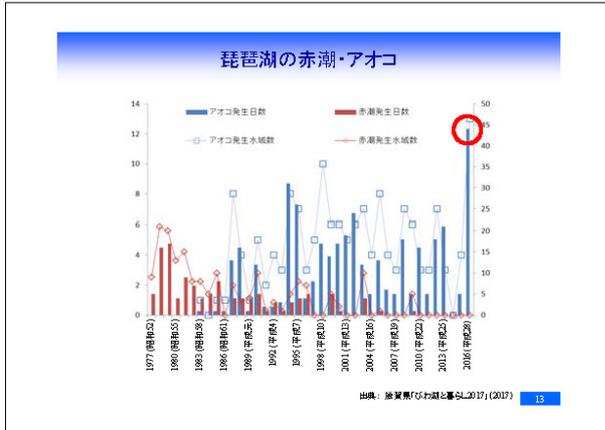
### 湖の生物のつながり



湖内生態系  
湖外生態系  
湖内・湖外生態系間のつながり

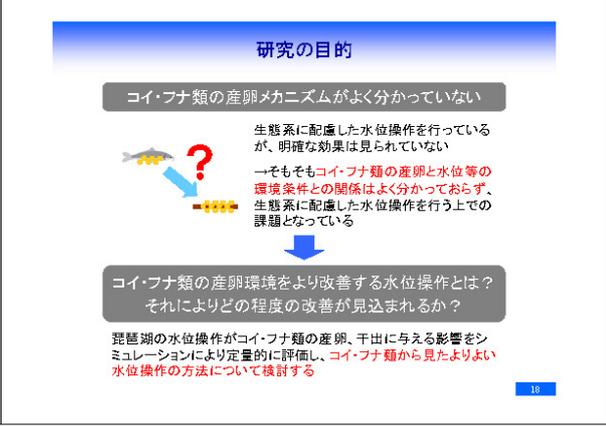
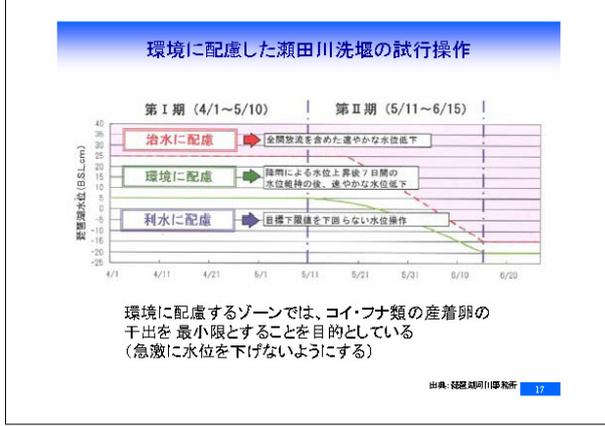
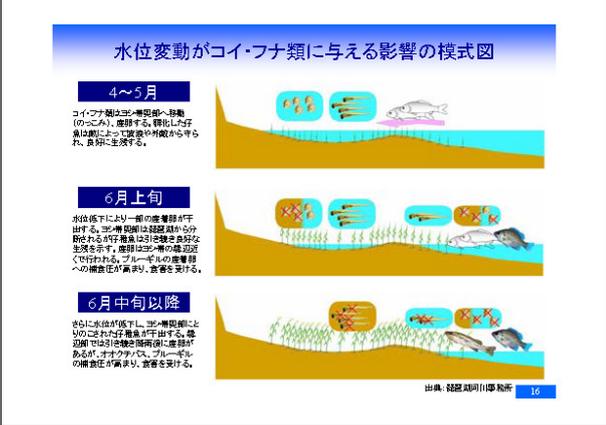
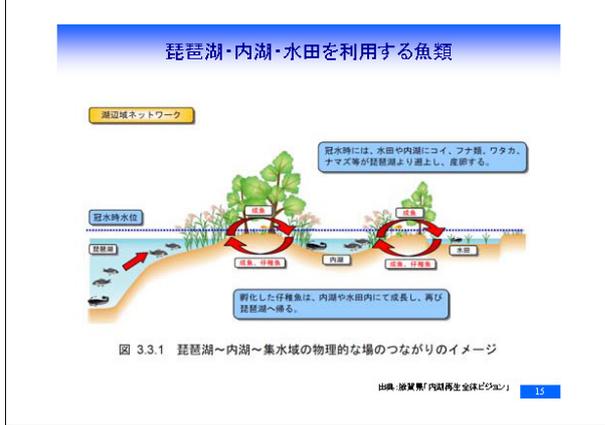
出典:琵琶湖湖沼事務所 琵琶湖水位データより特選 12

【参考資料 1-2】 内湖の機能・価値と再生の方策を考える 講演資料 (3/5)

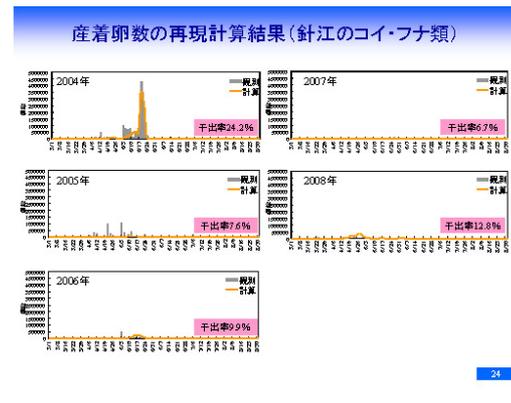
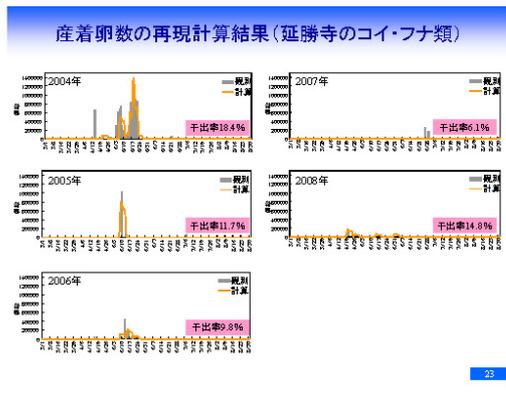
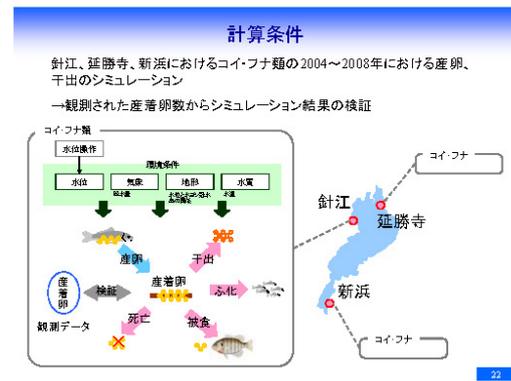
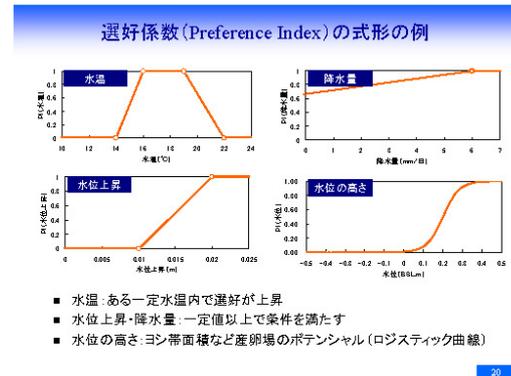
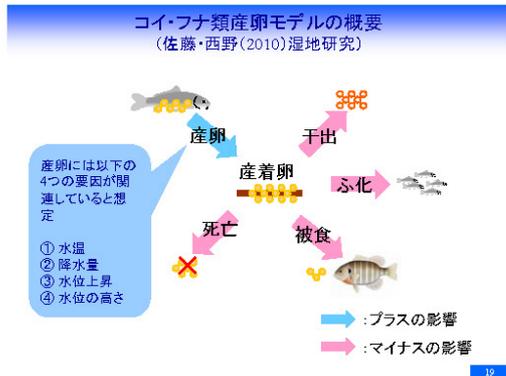


### 話の流れ

- 琵琶湖と内湖
- 内湖の水・物質循環
- 内湖の生物資源～主に魚類について～
- 内湖の再生について



【参考資料 1-2】 内湖の機能・価値と再生の方策を考える 講演資料 (4/5)



### 産着卵数の再現計算結果(新浜のコイ・フナ類)

2004年 未調査 干出率1.0%

2005年 未調査 干出率1.8%

2006年 干出率3.4%

2008年 干出率1.8%

### Preference Index (3地点のコイ・フナ)

延勝寺 針江 新浜

水温 降水量 水位上昇 水位の高さ

・ヨシの生え方の地域特性による違い  
・水位がB.S.L.0.1m以上ないとほとんど産まない  
→産卵場所がそもそも存在するかどうかが鍵

### 話の流れ

- 琵琶湖と内湖
- 内湖の水・物質循環
- 内湖の生物資源～主に魚類について～
- 内湖の再生について**

### 内湖再生の基本理念

- 人にとっての内湖の利用価値が低下したことが、今日の内湖の機能低下につながる根本的な課題
- 内湖の価値の再発見こそが、これまでの人々の暮らしと琵琶湖や内湖との関わりを見直し、内湖再生に向けた機運を高め、具体的な取組につなげていくためのいわばエンジンの役割を果たす

＜基本理念(ビジョン)＞  
内湖の価値を再発見し、本来の機能を再生し、琵琶湖や人とのつながりをつくり再興づくり

自然環境・生態系としての内湖  
人の暮らしと文化  
琵琶湖と内湖の再生

琵琶湖と内湖の再生は、自然環境・生態系としての内湖と、人の暮らしと文化の両方を再生させることである。琵琶湖と内湖の再生は、自然環境・生態系としての内湖と、人の暮らしと文化の両方を再生させることである。

出典: 滋賀県「内湖再生全体ビジョン」

### 内湖再生に向けた取組のイメージとシナリオ

＜新規内湖＞

- ステップ1: 価値の再発見**  
地元の人だけでなく、多くの人が暮らしとしての価値、貴重な在来魚介類の産卵・生育の場となり得る生態系としての価値
- ステップ2: 機能の再生**  
人が内湖に触れることが出来る施設の設置、在来魚の産卵場となる基盤の整備(ロシの植栽など)、在来魚の放流、外来生物の駆除、水草の刈取、体験型環境学習、参加型清掃イベントの実施など
- ステップ3: 効果の現れ**  
内湖とふれあう人でにぎわい、地域の暮らしと内湖との新たなつながりが生まれる。南湖に在来魚介類の産卵場が生まれる

出典: 滋賀県「内湖再生全体ビジョン」

### 大川河口部の自然再生に向けて

- コイ科魚類の産卵時期(3～6月)に琵琶湖とつながっているか？(特に水位低下する5～6月)
- 水の変換はどのように行われるか？
- 内湖部分の湖岸の傾斜は緩やかか？植生の状態は？
- 底質は砂地か泥地か？二枚貝はあるか？
- 在来魚の餌になる浮遊動物や藻類などはいるか？
- 人々がその価値を認識し、守り活かす活動をどれだけ継続できるか？

## 参考資料 2 – 参加者募集チラシ



**【開催趣旨】** 守山市を流れる大川は、琵琶湖に注ぐ野洲川の旧河道の一つです。琵琶湖の環境保全や地域振興を目的に、大川河口部を含む第2なぎさ公園を「滋賀セブンの森」と定め、セブン-イレブン記念財団の助成を受けながら市民と企業と行政が連携し湖岸清掃や小さな自然再生に取り組んでいます。

本研修会では、現地視察と座学を通じて、大川河口部の湿地環境としての価値を評価し、環境学習や地域の賑わい創出の場として、魚や水生昆虫などが増え、生物の多様性を高めるためにこれからできることについて参加者とともに考えます。

※本研修会は、「第5回滋賀セブンの森」に合わせて開催致します。

|       |  |
|-------|--|
| 開催日時  | 令和3年 11月 21日 (日) 9:00~16:30 (集合時間: 8:50)             |
| 集合場所  | 第2なぎさ公園内「第5回滋賀セブンの森」受付 ※8:50までに胴長靴着用で受付を済ませて下さい      |
| 会場    | 美崎公園パークセンター 会議室 <〒524-0101 滋賀県守山市今浜町十軒家2870-2>       |
| 対象    | 小さな自然再生に関心のある方々                                      |
| 定員    | 30名 (予定)   |
| 参加費   | 無料   |
| 持ち物   | 胴長靴 (ウェーダー)、防寒着、昼食 (ピクニック用) ※裏面参照                    |
| プログラム | ※プログラム及び講演タイトルは一部変更の可能性もあります。<br>※主催者側で行事保険に加入いたします。 |

※参加申込方法、集合場所&会場へのアクセス、問合せは裏面参照。

新型コロナウイルス感染防止のため、参加者はマスクの着用をお願いします。主催者側でも感染拡大防止策を行います。



土木学会CPD認定プログラム (JSCE21-1380 6.4単位)

(~8:50) 「第5回滋賀セブンの森」受付に集合

(9:00~12:50) 「第5回滋賀セブンの森」参加、湖岸清掃をしながら新川河口部及び大川河口部の現地視察

■現地案内・指導: 淡海を守る釣り人の会、丹羽英之 (京都先端科学大学)、佐藤祐一 (琵琶湖環境科学研究センター)、瀧健太郎 (滋賀県立大学)、岩瀬晴夫 (株式会社北海道技術コンサルタント)

- 湖岸清掃をしながら新川河口部及び大川河口部を巡り、参加者とともに河口部の水環境や生物を学びます。

(12:50 ~ 14:00) 座学会場移動 及び 昼食 ※駐車場を経由し移動するため、途中で胴長靴からの着替え可能

(14:00~16:30) 大川河口部の湿地環境を学ぶ座学研修

- 挨拶 (武田みゆき: 淡海を守る釣り人の会 副代表 / 土屋信行: 日本河川・流域再生ネットワーク 代表理事)
- 内湖周辺湿地の植生 (丹羽英之: 京都先端科学大学バイオ環境学部 教授)
- 内湖の機能・価値と再生の方策を考える (佐藤祐一: 琵琶湖環境科学研究センター総合解析部門 専門研究員)
- 大川河口部の保全・再生のためにこれからできることの見聞交換会

(16:30) 閉会 ※現地にて解散



公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けています。

主催: 淡海を守る釣り人の会、「小さな自然再生」研究会、日本河川・流域再生ネットワーク  
後援: 滋賀県、守山市、(一財)セブン-イレブン記念財団

## 会場のご案内

〒524-0101 滋賀県守山市今浜町十軒家2870-2

### 集合場所

**第2なぎさ公園「第5回滋賀セブンの森」受付**  
※お車でお越しの方は「美崎公園駐車場」をご利用下さい

### 研修会場

**美崎公園パークセンター 会議室**



## 申込み方法

E-mail : [info@a-rr.net](mailto:info@a-rr.net)

必要事項（氏名・所属・連絡先等）を明記の上、E-mailでお申込み下さい。

申込み切日：令和3年11月16日（火） 17:00

| 項目           | 記入欄                             |    |
|--------------|---------------------------------|----|
| (ふりがな)<br>氏名 |                                 |    |
| 所属           |                                 |    |
| 連絡先          | 〒                               |    |
|              | 住所：                             |    |
|              | 電話：                             |    |
|              | Email：                          |    |
| 弁当注文         | 「ビワコドーターズの湖魚弁当」注文の有無 ※当日にお支払下さい |    |
| 1,200円+税     | あり                              | なし |

※記入された個人情報は、厳重に管理した上で、JRRNが主催する行事等のご案内に利用させて頂く場合がございますので、ご了承願います。  
※当日は写真撮影及び動画撮影を行います。撮影した写真や映像は、WEBや活動報告書等で今後使用させていただきますので予めご了承下さい。

**【お問合せ】 日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局** (担当：和田彰・阿部充)  
〒104-0033 東京都中央区新川1-17-24 NMF茅場町ビル7階 (公財) リバーフロント研究所内  
Tel: 03-6228-3863 Fax: 03-3523-0640 E-mail: [info@a-rr.net](mailto:info@a-rr.net)  
Website: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>



(MEMO)

(MEMO)



## 「小さな自然再生」現地研修会（第13回）開催報告

～ 2021年11月21日（日）滋賀県守山市・大川、新川 ～

2022年3月30日

【発行】

日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）

〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 NMF茅場町ビル7階

公益財団法人リバーフロント研究所 内

電話:03-6228-3860 Fax: 03-3523-0640

E-mail: [info@a-rr.net](mailto:info@a-rr.net)

URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

※JRRN 事務局は、公益財団法人リバーフロント研究所が公益を目的に運営を担っています。